

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「かなえ」の言葉をわかりやすく理念としている。		
	○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念について毎月のスタッフ会議や新任職員に話している。また、職員は出勤・退勤時に提示している理念を各自で読み、理念の共有を計っている。		
	○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入り口に掲げ利用者の家族や地域の方がこられた折に見ていただくようにしている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は通勤時挨拶を行い、利用者との外出の際には、日常的に挨拶をしている。行事の際には、声掛けお誘いしている。また、近隣から花苗を頂くなど、付き合いが定着しつつある。	○	校区内の小学校に、年間行事の中に交流会を設けて頂いている。
	○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接するデイサービスの協力もあり、利用者同士が自由に入りし、交流が図れている。	○	11月に地域主催の宮若福祉祭りに参加予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月の会議などや都度の打ち合わせで職員間や経営者と話をしている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・全職員は会議の場で、管理者や管理者研修に行った職員が外部評価の意義を話し、全職員が理解したうえで前回の評価結果の改善シートを作成し、改善に向けて話し合いをしている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回運営推進会議を設けているが、出席者からの意見が少ない。	○ 話し合いの場だけではなく、バーベキューなど企画し、家族・地域・行政などの方々に声掛けし参加して頂き、お互いに意見を言い合えるような関係になっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、定期的に行政を訪問して外部評価の報告や担当者との意見の交換がある。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の研修を受けた職員が、会議にて報告し話し合いの場を設けている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を受けた職員が、会議にて報告・話し合いをした結果、マニュアル・高齢者虐待防止法の資料を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しては十分な時間を設けて利用者や家族と協議話し合い説明の時間を設けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの要望や申し出に際しては、管理者、職員が各個人と十分に話し合いその意見を職員や経営者と話し合い運営に活かす取り組みをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、来園時や運営推進会議にて報告したり、定期的に「かなえだより」を発行している。個々の健康状態についてもその都度連絡している。金銭管理については、金銭出納帳に家族のサインをもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切にそれぞれの家族との話し合いを持ち各職員間や経営者との話し合いの機会を持ち運営に活かしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々運営者は、職員との対話の機会を設けその意見を運営に活かす取り組みをしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常時日勤帯は3名出勤している。また、利用者病院受診時や入院時の付き添いがある際には、職員を確保し、勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者については、いきなり利用者に伝えしないで時間を掛けて受け入れてもらえるようにしている。		スタッフが「かなえOG会」を発足し、定期的に会合を開いている。また、OGが遊びに来ており、利用者との関係も続いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	職員採用には特に基準はない。服務規程・職業規定・雇用契約書は一体となった書式で取り交わしている。職員の勤務体制については、希望に副えるよう配慮を行っている。	現在、63歳の常勤職員が生き生きと得意分野を発揮しながら働いている。
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	各種研修会に出席しその結果を会議等で話し合い共通認識を持つように心がけている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	新入社員には、初日にマニュアルを説明しつつ、指導職員はマニュアルの見直しも行っている。年間研修計画を作成し、参加した研修については、参加した職員が職員会議で報告し、記録を整備している。	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者・職員は、GHみやわかや直鞍勉強会に参加し、お互いに交流することにより、サービスの向上を目指している。また、包括支援センターにより徘徊ネットワークが作られ、地域でお年寄りを守るという意識が芽生えてきた。	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	その都度管理者とスタッフが話し合いをしている。管理者は、スタッフの誕生日に好きな物をプレゼントしている。スタッフルームに入った際には、不平・不満・愚痴を言える場所になっている。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	管理者指導の下、職員同士で個性を知り、お互いによい所を伸ばすよう声掛けをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	スタッフから声を掛け、ご本人さんからの話を傾聴し、スタッフ全員で話し合い解決出来るように努めている。また、ホーム独自の利用者基本情報をセンター方式に活用している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時・利用開始時に家族からの話を傾聴し、スタッフ全員で話し合い蜜に連絡・報告を行う様努めている。また、ホーム独自の利用者基本情報をセンター方式に活用している。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・管理者・CMが話し合いをし、その後ホーム独自の利用や基本情報・センター方式を基にし、全職員で対応に努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には体験入居して頂き、一旦自宅に戻られ家族と相談し入居されたり、初期対応無しで入居となった場合は本人・家族・CMと蜜に話し合いを行い対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中での言動・行動により、利用者の個性を知った上で、信頼関係を築いていける様努めている。新入社員には、人生の先輩としての対応をする様指導している。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来園時には利用者の話をするだけでなく、日常会話を行い信頼関係を築いていく上で、行事等での参加も促し交流を図っている。	バーベキューや利用者と一緒に食事をする等、日常生活の中に入って頂く事を企画している。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族の関係を理解し尊重した上で、職員が個別対応をしている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へドライブへ行き、車内で思い出に花を咲かせる。また、年賀状・暑中見舞い・手紙・電話等で関係が途切れないように支援している。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の生活スタイルに合わせ、スタッフ全員で利用者が孤立しない様に対応している。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業者及び管理者が年賀状や暑中見舞い等の連絡を定期的に行っている。また、スタッフが利用者に会いに行ったり等している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、利用者・家族の協力のもとこれまでの生活歴を伺い、独自のアセスメントと東京センター方式に記入し、スタッフ全員で検討している。困難な場合はこれまでの生活環境を把握し、検討している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に、自宅や入院場所を訪問し、生活環境の把握を行い、利用者や家族に十分な聞き取りを行いながら、アセスメントを作成している。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態観察・申し送り・介護記録・健康チェック表を活用し、ケアプランを作成して把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が生きがいを持って生活できる様に、本人の話を聞き、家族の面会や主治医の定期的な往診を活用し、様々な意見を取り入れた介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や支援経過記録を基に、状況の変化があった場合はサービス担当者会議を迅速に行い、会議内容や家族の聞きとり記録を整備し介護計画の見直しを行っている。見直した介護計画は、家族に説明し、同意を得ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や朝・夕の申し送りを基に、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時には状況に応じて別室を準備し、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また、協力機関や利用者が希望する医療機関の受診に家族が同行できない場合や理美容院等への送迎は自主サービスとして柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	救命講習・消防訓練を受けている。		近々、火災訓練・お坊さんを招いて説教をして頂く予定である。
43 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣のデイサービスとの交流を図る為に、合同の行事を計画している。		
44 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ、地域包括支援センターと連絡・相談を行い、資料を頂いている。また、運営推進会議には参加をお願いしている。		
45 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安倍病院を協力病院としているが、本人及び家族の希望を大切に、他の病院も受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	安倍病院・他の病院と相談及び治療を行っている。		家族の希望により、本人・家族・スタッフで病院受診をしている。
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	安倍病院の看護師・近隣デイサービスの看護師と密に連絡・相談をしている。		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	家族・入院病院の医師・看護師と密に連絡をとり、情報交換や相談に努めている。		往診時に、主治医より退居された方の状態を知らせてくれる。
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	利用者の状況に応じて家族・主治医・職員で終末期のケアについて話し合い同意書を取り交わしている。運営推進会議にて話し合い方針を共有している。		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度や終末期には、定期的に主治医・家族に報告・連絡・相談し、主治医の指示の基、家族の意向を確認しながらスタッフ全員でできる限りの支援に取り組んでいる。		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人及び家族に十分な話し合いを行い、ダメージの軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーマニュアルを目のつく所に掲げている。プライバシー保護や人権の尊重・処遇に関する研修に参加し、スタッフ会議にて話し合っている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者個々に合わせた支援を行っている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活リズムを把握し、大切にしながら支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせた衣服調節や買い物及び本人の希望にて、行きつけの理美容院へ行っている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に野菜を採りに行き、季節を感じながら下拵え・盛りつけ等で利用者の力量に応じた関わりを支援している。職員も同じテーブルで食卓を囲み、見守り・食べ易い様支援している。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好みを聞き、取り入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを知り支援している。レベルに合わせた下着の調節を行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴を支援している。入浴はおっくうになってきた利用者には、声掛けや誘導を工夫しながら、週2～3回の入浴を支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室内の湿度・温度・あかりの調節・音の配慮を行っている。使い慣れたお布団を使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下拵え・盛りつけ・花壇・畑作りや習字・将棋等利用者各自の出来る事・楽しみ事を支援している。また、隣接するデイサービスの利用者と一緒に陶芸・そうめん流し・大正琴・踊りの会に参加し交流を図っている。		利用者世代のビデオを上映したり、スタッフ世代の遊びを取り入れる等をし、自然に利用者がスタッフに合わせてくれ、お互いに楽しんでいる。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を重視し、自己管理・職員管理にしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を作成しているが、日常的に利用者の意向を聞いて外出や散歩をしている。また、家族にも協力してもらい外出する機会を作っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人・家族の希望を重視し支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人訴え時、電話をかけた後・手紙を出したり等支援し、また電話がかかってきたら代わり、手紙が届いた際は直接本人に渡している。		電話に関しては、自室にてゆっくり話せる環境を配慮している。耳の遠い利用者には、子機では聞こえにくい為親機でかけて頂き、安心してゆっくり話して頂ける様支援している。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室にてゆっくりと話せる環境を配慮して別室も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、スタッフ会議にて話し合い勉強している。		現在、身体拘束は行っていない。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入り出来るようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間以外は施錠せず、玄関・勝手口・非常口には鈴を付け職員の見守りで対応している。隣接しているデイサービス職員にも見守りをお願いしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態に合わせた対応をしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎日の業務日誌にも確認事項欄を設け、人数や火元・薬等チェックを行っている。日々、利用者の状態の把握をし、スタッフの報告・連絡を密にし事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアル・連絡網を作成し、救急救命講習等を受講し万が一の事故に備え訓練を行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、地震・水害訓練を実施している。備蓄品・消火器も準備している。運営推進会議等に働きかけを行っている。	○	火災想定避難訓練を予定していたが、水害の為延期している。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族来園時に、状態報告と共に起こり得るリスクについて家族に説明し、理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行うと共に利用者のちょっとした体調の変化を見落とさず速やかに家族・医師へ状態報告し指示を仰いでいる。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬管理表を作成し病状・薬の目的や副作用について勉強会を行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をしながら、普段より飲食物の工夫等薬に頼らない働きかけをしている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛け・誘導・介助を行い、個々に合わせた歯ブラシ・歯磨き粉をしようしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事カロリーを把握して利用者毎に食事の量を調整している。また、毎食の摂取量や水分摂取量(1日1000ml)を記録し、咀嚼・嚥下状態を把握している。毎月体重測定をしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、スタッフ会議にて話し合いを行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表を作成し、担当を決めて管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周辺に花をたくさん植えている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、季節に応じ花・壁掛け・室内装飾を変更し、季節感を取り入れている。また、天候や時間に応じて、光やあかりの調節をしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・廊下・デッキ・談話室などに椅子を設置するだけでなく、各居室にも椅子を置き、利用者同士が行き来しやすい空間を作っている。また、安静室を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には備え付けのベッドがあるが、なじみのベッドを使用している利用者も居る。また、家具・使い慣れた物を置き、出来るだけ以前と変わらない空間作りをしている。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンを取り入れながら定期的に換気を行い、臭いにも配慮している。		使用済みパットや生ゴミは古新聞に包んで捨てている。利用者も率先して協力してくれている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、手すり・椅子等の設置場所を配慮し危険防止に努め、自立を促している。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自己の力に応じた作業を促し無理のない様に希望に添った支援をしている。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者の望む野菜や花作りをしている。中庭やウッドデッキでお茶会をし、楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

前回より職員が結婚・出産の為入れ替わり、新職員で体制を整える為、書類関係を見直したり研修にも参加し、改めて記録の重要性を再確認しました。現在では、本人を観察しつつ、誰が見てもその人がわかる様な記録を目指しています。管理者のスタッフへの信頼が強くあり、日々の業務・行事・勤務等に関してはスタッフ中心で行わせて貰っています。